

白鳥誠 市政レポート Vol.80



発行：千葉市議会議員 白鳥誠事務所

〒266-0033 千葉市緑区おゆみ野南2-97-9 TEL.043-293-7130 FAX.043-307-4882
E-mail : info@m-shiratori.jp URL : www.m-shiratori.jp

令和3年第4回定例会議会報告 (11月26日～12月15日)

令和3年第4回定例会で、コロナ対策(ワクチン追加接種等)等のための補正予算や各種議案が審議され可決承認されました。補正予算のうち、「子育て世帯等臨時特別給付金」については、千葉市は当初、年内に現金5万円を先行給付する方針でしたが、国の方針転換を受け、10万円の一括現金給付に切り替えたために、定例会終了後、そのための専決処分*が行われました。それとともに、住民税非課税世帯等に対して、1世帯当たり10万円を支給する臨時特別給付金についても、専決処分が同時に行われました。また、私は、「本市の地域経済活性化のためには、房総半島の活性化が必要不可欠」との事を訴える一般質問を行いました。

今号では、「子育て世帯等臨時特別給付金」「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金」に関する専決処分と今定例会で私が行った一般質問の概要について報告します。

*「専決処分」とは、本来は議会が議決しなければならない案件を、時間的に議会の招集を待てない緊急な場合などに、市長が議会の議決に代わり意思決定することです。今回は、2つの給付金について、できる限り早く支給できるようにするため、専決処分となりました。

「子育て世帯等臨時特別給付金」について (R3年12月20日国会で決定)

今定例会で、「子育て世帯等臨時特別支援事業(先行給付金)」の補正予算が提案され、全会一致で可決承認されました。私の会派では、当初言われていた2回目の支給は、コスト・事務作業、受給者の使い勝手等の観点から「クーポン券」ではなく「現金支給」とすることについて、要望書を提出する等要望していましたが、国での議論が急展開し、先行給付金(5万円)に加え、追加給付分の5万円についても現金で一括給付できるようになりました。

支給対象者

- 令和3年9月分の児童手当の受給者
- 基準日(令和3年9月30日)において、15歳から18歳の児童の養育者等
- 基準日の翌日以降、令和4年3月31日までに出生した児童の父母等

※所得制限の目安 年収960万円(扶養親族等が児童2人と年収103万円以下の配偶者の場合)

対象児童数 14万4千人(見込み)
支給金額 対象児童一人につき10万円
支給方法

- 令和3年9月分の児童手当受給者については、申請が不要なため、案内文等を送付した後、受給拒否の届出があった者を除き、児童手当支給口座に振込み(R3.12月23日)
- 上記以外の対象者については、口座情報等を管理していないため、申請書を受付後、審査の上、指定口座に振込み。

予算額 給付金 144億円
【財源】国庫補助金(補助率10/10)



「住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金」について (R3年12月20日国会で決定)

住民税非課税世帯等に対して、1世帯当たり10万円の現金を給付するものです。支給は、3月頃から順次開始となる見込み。

対象世帯 約16万世帯

- ① 基準日(R3年12月10日)において本市に住民

登録があり、世帯全員のR3年度分の住民税均等割りが非課税である世帯

- ② 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変し、上記と同様の事情にあると認められる世帯

想定事業費 約174億円

千葉市は、県都・政令市!



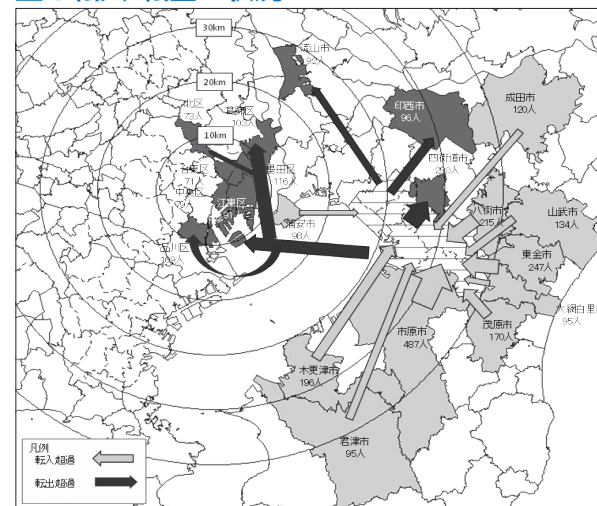
千葉市は、約98万人の人々が暮らし、千葉県を中心・房総半島の入口に位置する全国を代表する大都市・県都・政令市です。一般的に県都・政令市の役割は、市民に最も近い基礎自治体(一般市町村と同様)の役割とともに、それぞれの圏域における政治・経済・産業・金融・文化・情報・交流などの各分野で、圏域全体の活性化・発展のための中枢都市として「けん引役」の役割、都市行政の最先端都市として県内の諸都市を先導する役割、その時々都市問題に果敢に挑戦し解決策を模索・提供することで、県内の諸都市を、ひいては全国の諸都市をリードする役割、また、県のイメージを代表する「顔」としての役割があります。



人口の動き

- 千葉市の総人口は、安定的に増加。(近年 花見川・若葉区は減少)
- 自然増減(出生数と死亡数)は、平成26年(2014年)以降7年連続で減少。
- 社会増減(人口転入数と転出数)は、近年増加を維持(マンション・住宅団地開発がつづいていたため)
- 本市の人口は、主に市以東、以南の地域からの転入により支えられてきたが、これらの地域では既に人口減少が始まっており、本市の活力を維持するためには、本市単独ではなく、周辺都市までを含めた圏域全体の人口維持・増加を考えることが必要。

主な転入・転出の状況



出典)令和元年(2019年)住民基本台帳移動報告(総務省)

市内通勤者約6割、東京都への通勤者約2割

本市は、いわゆるベッドタウンというイメージとは異なり、市内で働く人が多く、広域的な仕事や買い物の場として高い拠点性を持っています。

● 東京への通勤者の割合

(首都圏政令市、2015年・国勢調査)

千葉市	21.4%	さいたま市	30.5%
横浜市	26.4%	相模原市	25.1%
川崎市	43.4%		

● 千葉市内民営事業所数・従業者数

(2016年・経済センサス)

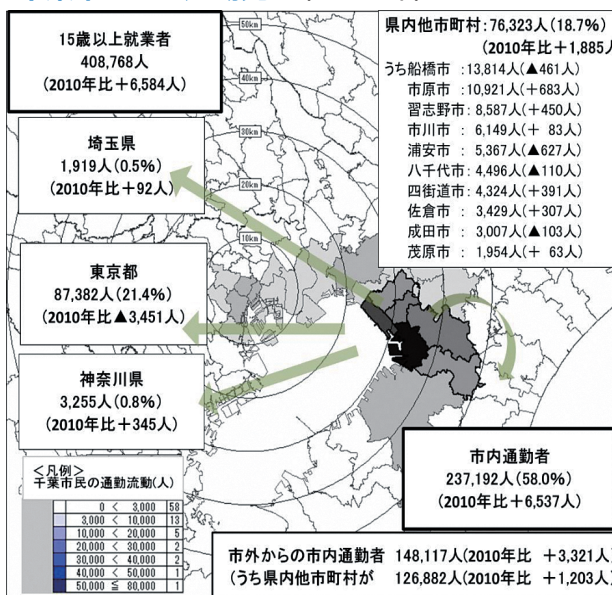
31,015事業所、従業者数406,378人

● 小売業年間商品販売額

(県内主要都市・近隣政令市、2016年・経済センサス)

千葉市	1兆1119億円	船橋市	5750億円
市川市	3325億円	横浜市	4兆119億円
柏市	4723億円	川崎市	1兆2287億円
さいたま市	1兆3785億円		

千葉市からの通勤先 (2015年)



(出典)平成22、27年(2010、2015年)国勢調査(総務省)

*「国勢調査の結果については、2020年度調査の統計結果はすべての結果が公表されておりませんので、2015年度の調査結果を掲載しています。

千葉市発展のために房総半島の活性化を!

Q 千葉市の大都市・県都としての役割と責任について

A 広域的な就業の場となるとともに行政・経済等の中心として県勢を牽引する役割を担っていくことが期待されており、広域的な拠点都市として、千葉市以東・以南を中心とする圏域全体の活性化に寄与する役割を果たしていくことが重要である。

県・県内他自治体との連携強化を!

Q 「房総半島の発展に寄与する役割を果たしていく」ことを実行していくことが本市の責任であり、本市の発展には欠かせないということをも市民・県・他自治体に対し説明していくことについて

A 圏域全体の活性化の必要性について、幅広い関係者と認識を共有することが重要であると考えており、様々な機会をとらえて市民の皆様へ情報発信していくほか、県や周辺都市に対して対面等で説明し、連携の強化について意見交換を行っていく。

千葉市農産物ブランド対策の強化を!

Q 市内産業の活性化・競争力強化を目指し、食のブランド化を進めるためブランド「千」の課題と今後の取組みについて

A 市民の皆様への認知度が低いこと及び認定品には旬の農産物が多いため、季節を通じた販売支援が困難なことが、課題。認知度向上については、今年度から認定品をふるさと納税の対象とすることによって、広く市内外にアピールする。また、県内産の農産物を原料とする加工品を認定品として中長期的に増やすことで、季節を通じた販売支援を進める。



房総半島の観光資源と連携した観光施策を!

Q 千葉市を起点とする観光ルートを開発、PR、売り出すことについて

A 今後、観光事業者や交通事業者等にヒアリングなどを行い、本市を起点とする観光ルートの開発など、県内の観光資源を活用した施策を検討する。



緑区・「昭和の森」の魅力アップを!

Q 昭和の森に直売場やレストランを整備することについて

A 昭和の森に直売所やレストランを整備することについては、現在のところ考えていないが、昭和の森では、農業従事者等が主体となったイベントとして、市内・県内で収穫した野菜などを販売した実績もあることから、それらの効果を踏まえて取組みを検討する。

昭和の森の面積は約106haで、園内には、約17haの「太陽の広場」をはじめ、休日には家族連れなどで賑わう広大な芝生広場があり、今年はコロナの影響で実施できなかったものもありましたが、「花火大会」など様々なイベントで活用されています。また、観光庁の魅力あるランニングコースにも指定され、これまでにクロスカンтриー大会などが開催されています。「昭和の森」は多くの方から「素晴らしい公園」と評価されており、「市民の憩いの場としての魅力アップ」「観光資源としての活用」「農業者支援」「房総半島とのつながり」等様々な観点からの魅力増につなげるために、レストランや直売場の設置を求めました。



昭和の森「展望台」(太平洋を望む)



昭和の森「太陽の広場」

千葉市と千葉県(特に房総半島)は運命共同体!

千葉市には、超高齢化・人口減少が進むなかでも、今後も市民の幸せを追求していくことが求められます。そのためにも、地域の活力を維持向上していかなければなりません。県都・千葉市の発展は、特に房総半島に支えられてきました。しかしながら、房総半島では超高齢化が進行し既に人口減少が始まっています。千葉市の活力を維持するためには、本市だけではなく房総半島全体の活力向上を

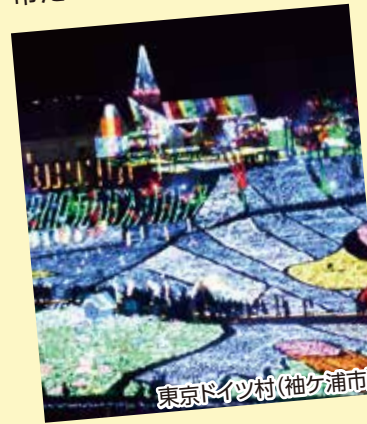
考えることが必要であり、本市と房総半島が一体的に地域活性化を進める必要があります。そのためには、県・房総各自治体との連携による観

光・農業等の面での一体的な取組みが求められます。このことは、千葉市長であった方が県知事となり、広い見識をもち、知事と率直に語り合える神谷新市長が誕生したからこそ、実現できることであると考えます。

コロナ収束後の経済活性化を進めていくときに、この認識をもつことが必要ですが、現場レベルでの具体策を進めるときに、千葉市の利益だけを考えがちなことから、この認識を確認することが必要との思いから、今回このテーマを取り上げました。今後も私は、この認識を持って、本市の地域活性化を目指すとともに「千葉市の活力向上は、房総半島の活力に、ひいては千葉県全体に寄与する」ことを県も他自治体も認識するよう活動して参ります。



鴨川シーワールド(鴨川市)



東京ドイツ村(袖ヶ浦市)

白鳥 誠 プロフィール

- 1958年 (昭和33年1月30日生まれ)
- 1976年 千葉県立木更津高校卒業
- 1981年 立教大学を経て、そごう百貨店入社(1999年まで18年間、有楽町そごう勤務)
- 2003年 衆議院議員公設秘書
- 2007年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。初当選
- 2011年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。2期目当選
- 2015年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。3期目当選
- 2019年 (4月)千葉市議会議員選挙において緑区より出馬。4期目当選



今回取り上げた問題等、市政に関わること何でも結構です。みなさんのご意見をお聞かせください。どうぞよろしくお願いいたします。

E-mail : info@m-shiratori.jp Fax : 043-307-4882

市政報告のお知らせ

1月22日(土)

10:30~11:30 (鎌取コミュニティセンター・集会所)

15:30~16:30 (あすみが丘プラザ・会議室2)

1月23日(日)

13:30~14:30 (倉田公民館・工作室)

新型コロナウイルス感染防止の観点から中止といたしました